



大野市教育委員会たより

令和元年10月2日発行 第20号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：9月24日(火) 午後7時～8時35分 次第 ・1部 子育て講演(講師：久保教育長)
場 所：誓念寺こども園 ・2部 意見交換
対象者：誓念寺こども園保護者(6人)・保育士(13人)

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎第1次ベビーブーム時代と今とを比較し、学校の教育や環境はどのように変わったか。

- ⇒ ■昔は40人学級だったが、現在は小学校1年生から4年生までは最大で35人学級である。ほとんどの学校では20人台の学級が多い。1クラスの人数が減り、1人1人に目が行き届きやすくなっている。中学校では1年生は最大で30人、2・3年生は32人である。また、総合的な学習の時間ができ、ふるさと学習に力を入れている。これにより、学校の垣根が低くなったと感じている。地域の方や保護者、一般の方に学校へ入っていただき、教職員と一緒に子どもを育てている。それに合わせて、子どもたちが自分たちで考え、自分たちの想いを発言していく授業に変わってきている。
- ⇒ ◎今年の有終東小の夏休みの宿題が3つ(夏休みの友、作文、ポスター、その他自由研究)しかなく驚いたが、逆にいろいろなことにチャレンジさせることが出来て良かった。校長の方針なのか。
- ⇒ ■そうである。教育委員会では、子どもには個性があり、能力の違いがあるため、夏休みの宿題も含めて、普段の家庭学習のあり方を見直していくこととしている。有終東小では夏休みに、子どもがとことん取り組んでいきたいことを保護者と一緒に楽しみながら学習していく方法を取り入れ、現在、その結果を検証している。
- ⇒ ■有終東小の校長は、自由研究の事例を30ほど挙げて保護者に説明している。
- ⇒ ◎自分の学校教育などに対する考えが30年前でストップしていて、今の子どもの教育に当てはめることが出来ないと強く思った。

◎人口減少の中で学校再編はやむをえないと考えるが、先生になりたいという人の間口が狭くなるのではないかと、大野に住まない人が増えるのではないかと。

- ⇒ ■教職員は学級数を基準に、加えて、校長や教頭、養護教諭などが配置される。中学校では、音楽や美術、技術などの専門教職員も配置されることになるが、上庄中や尚徳中、和泉中では学級数が少ないため、専門教職員が配置されない教科もある。学校再編により、総数では配置される教職員は少なくなるが、現在、本市では市外出身の教職員も配置されている。市外の学校に配置されている大野市出身の教職員もいる。教職員の配置数や市出身の教職員の配置などを県に要望していかなければならないと考えている。
- ⇒ ◎教職員になりたいという希望者の状況はどうか。
- ⇒ ■今年は約3倍であり、毎年少なくなっている。
(この後、学校再編の平成16年からの取り組み経過を補足説明する。)

◎学校再編で、中学校1校、小学校2校に減らしていくのか。

- ⇒ ■学校数については、現在は白紙の状態である。今年1年、意見交換会などの結果を基に、学校数や再編する時期、再編の方法について来年検討していきたい。なんらかの再編は必要と考えている。
- ⇒ ◎小学校で苦手な友だちがいて、中学校で別々になれることで気が楽になったので、中学校1校はどうかと思う。スクールバス通学になることで、歩かなくなる。また、登校は良いが下校はどうなるのか。
- ⇒ ■校数が減ってもクラス数が増えれば、多少は解消できるという考えもある。スクールバスの通学では、家の前での乗車ではなく、集合場所まで歩いてきてもらうことになると思う。歩く必要性も念頭に入れながら、バスルートなどを検討していきたい。下校は低学年と高学年に分けて2便を出せるようにしたい。学校が終わったら、児童館や放課後子ども教室への送迎を考えている。
- ⇒ ■意見交換会時の意見やアンケートにおいて、再編の不安事項で最も多いのが登下校に関することである。慎重に考えていきたい。

- ◎周りから「あの学校は荒れている」、「放課後子ども教室でトラブルがある」などの噂が入り不安である。
- ⇒ ■小学校はこども園と比べて、保護者同士のつながりが薄いのではないかとされている。小学校にはPTA活動があり、懇談会や行事を行っているため、積極的に参加いただき保護者同士のつながりを深めて欲しい。心配な点については、どの小学校でも、いじめを対象とした保護者宛のアンケートを行っている。その時に、不安なことなどを書いて欲しい。また、学校公開日を設けているため、参加をいただき、担任や校長・教頭などと話をし不安を取り除いていただきたい。
 - ⇒ ◎小学校のPTA役員の仕事は、こども園と同じ感じか。
 - ⇒ ■学校の規模によって役員数などは違う。学年行事や懇談会を学年委員が行っている。
 - ⇒ ◎児童館へ子どもが行っており、いじめなどに遭わないか心配していたが、子ども同士のコミュニティがあり、自浄作用が起き、自然とバランスが取れていくようになる。
 - ⇒ ◎そのようなトラブルで、児童館などに行かなくなる子どもはいるのか。
 - ⇒ ◎子どもに任せていた。
 - ⇒ ■児童館などは途中で辞めることは出来る。児童館に預けるから学校が関与しないということではない。学校も児童館と連携を取りながら、いじめなどの対応をしている。
- ◎不登校の子どもがすごく増えていると思うが、学校はどのように対応しているか。中学校では昔、部活に必ず入らなければならなかったが、今は校外のクラブでも大丈夫と聞いている。
- ⇒ ■国では、暴力やいじめは問題行動であるが、不登校はそうではないとしている。不登校の防止体制では、青少年教育センターにスクールソーシャルワーカーと臨床心理士という専門職員を1名ずつ配置している。学校には教育相談員がいる。この3人が協力しながら、対応をしている。学校では常に子どもに目や声を掛けながら未然防止に取り組んでいるが不登校になった時、無理に学校へ行かせるようなことは現在していない。学校に行くことだけでなく、社会に出たときに目標を持てるような自立支援を意識したサポートを行っている。また、青少年教育センターでは勉強を教えたり、相談を受けたりする教職員のOBなどがいて、不登校の子どもが次のステップに進める居場所を作っている。
 - ⇒ ■部活動では、学校の種目が限られているため、サッカーやスイミング、トランポリンなど自分がやりたい種目に集中できるよう、校外のクラブにも範囲を広げている。
 - ⇒ ◎なぜ、不登校になるのか。
 - ⇒ ■主な要因は2つである。1つは勉強についていけなくなる学力に対する不安である。もう1つは友だち関係である。
 - ⇒ ◎教職員は、不登校になりそうな子どもが分かるのか。
 - ⇒ ■1つの目安として、小学校で不登校が長期化する子は年間で5日間以上、学校を休んでいる場合が多い。定期的に休む子は注意している。中学校で不登校になる子の約8割が、小学校で定期的に休んでいる。理由が分からないまま不登校になる子も何人かいる。
 - ⇒ ◎そういう時、保護者はどうしたらいいのか。
 - ⇒ ■青少年教育センターに配置している臨床心理士は、子どもと相談するだけではなく、保護者や教職員の相談を受けることが多い。突然、不登校になる子の主な原因は家庭環境にあることが多い。ずっとこらえていたものが思春期に爆発し、不登校になった子もいる。不登校の要因は子どもによって違うため、その子にあった適切な対応を慎重にしていけることが大事になる。
- ◎発達障害の子どもを学校はどこまで受け入れるのか。近年、発達障害という言葉が使われるようになり、細かく分類されている。学習についていけないから発達障害となるのか。
- ⇒ ■昔は、落ち着きがない子は、親のしつけが悪いなどされていた。よく考えると、それは発達障害だったのかもしれない。発達障害にはいろいろな種類がある。学校では慎重に子どもの様子を見ながら、学校に配置されている特別支援コーディネーターが保護者とよく話をしながら、発達障害の恐れがある場合は病院での診察を進めている。その診断結果を受けて、その子に応じた教育を行っている。
 - ⇒ ■大野の学校には結の故郷教育支援員を配置し、子どもに寄り添いながら、学習のサポートをしている。
- ◎意見を言えるこのような機会は有難い。学校再編については、十分に住民の意見を聞いていただきたい。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

